

SOMPOホールディングスの業務改善計画の進捗状況（2024年5月末時点）

1. 業務改善計画を着実に実行し定着を図るための経営管理（ガバナンス）態勢の抜本的な強化

(1) グループガバナンスの強化・実効性の向上

- ・本年4月から、当社の取締役会議長をグループCEOから社外取締役に変更するとともに、損保ジャパンの取締役会議長も執行トップ以外から選定して、取締役会と執行の分離を進め、監督態勢を強化しています。
- ・損保ジャパンでは、ビジネスモデル・経営戦略の検討において、コンプライアンスリスクを含むリスクについて前広に考慮・検討のうえ、適切な意思決定を行うことができるよう、取締役会や経営会議の付議基準、分掌規程・稟議規程等の社内規程を見直しました。

(2) 事業会社（国内主要会社）の機関設計の見直し

本年4月、損保ジャパンは社外取締役に4名選任するとともに、監査等委員会設置会社へ移行しました。

(3) コンプライアンス担当役員の設置

本年4月にコンプライアンス担当役員を設置しました。コンプライアンス担当役員は、損保ジャパンのコンプライアンス担当役員も兼務しており、両社の適時・適切な情報共有・連携強化を牽引しています。

(4) コンプライアンス室の新設

本年4月にコンプライアンス室を設置し、損保ジャパンと適時・適切に情報を共有し、連携を強化しています。

(5) 内部監査担当役員の設置

本年4月に内部監査担当役員を設置し、損保ジャパンの内部監査部長から適時・適切な報告を受ける体制を構築しました。また同担当役員の指揮のもと、本業務改善計画の進捗等についてモニタリングを開始しました。

(6) グループCxOと個社CxOとの相対関係の明確化

グループ会社との密接な連携態勢を築くために、グループ・チーフオフィサーと各社のチーフオフィサーとの相対関係や連携方法等を整理しています。

(7) 専門人材育成の強化

人材ポートフォリオを分析して今後の人材戦略方針や具体的な施策の検討を開始しています。

2. 保険持株会社として、子会社である保険会社の業務の健全かつ適切な運営を確保するための態勢の構築（損保ジャパンの内部統制の十分性・実効性を適時・適切に把握し適切な経営管理を行うための方策を含む）

(1) 子会社の重要施策等に関する内部統制等のモニタリング態勢

① 重要施策等に対するモニタリング強化

損保ジャパンの重要施策等に対する事前リスクアセスメント・事後モニタリングが徹底されるように、当社のモニタリング手法を見直しながら、損保ジャパンの当該運用状況を確認しています。

② 損保ジャパンの内部統制の十分性・実効性のモニタリング

損保ジャパンの内部統制（以下のア～オを含む）の十分性・実効性について監督・モニタリングを行うため、損保ジャパンのコンプライアンス部と当社のコンプライアンス室が定期的にミーティングを実施し、損保ジャパンの策定した業務改善計画に掲げる再発防止策の進捗状況等を確認しています。

- ア. 保険募集／契約管理態勢のモニタリング
- イ. 保険金支払管理態勢のモニタリング
- ウ. お客さまの声の管理態勢のモニタリング
- エ. お客さま被害事案の管理態勢のモニタリング
- オ. 利益相反取引管理態勢のモニタリング

また、下記③による監査委員会の監査の実効性を向上させるために、業務改善計画の進捗状況に加えて、グループCRO等が内部統制システム全般、グループの重大リスクへの対応状況、および子会社での不祥事案・重大事案の発生状況や再発防止策の実施状況等を四半期毎に監査委員会に報告することとし、その対応を進めています。

③ 監査委員会による本改善計画の進捗管理を含む内部統制の整備・運用状況等の監査

監査委員会の監査の実効性を向上させるために、四半期毎にグループCRO等から報告を受けるとしており、その方法等について報告を受けました。また、グループ各社のリスク事象に対するモニタリングを強化するため、グループ会社の監査役等と各社の監査計画について意見交換をするなど、連携を強化しています。

(2) 一連の問題に関する情報連携・報告態勢

① 子会社の重要情報が漏れなく当社に報告されるための態勢整備

ア. 重要事項に関する子会社から当社への報告ルールの再整備

- ・グループ各社に求める「当社承認事項等」を明確化・具体化しました。
- ・グループ基本方針等を改定することにより、グループ各社が自社におけるコンプライアンス／お客さま被害に係る重要事案を、前広に当社に報告する旨を明確化しました。
- ・その他、損保ジャパンのレポーティングルールについて、当社への報告基準との整合性を点検しました。

②子会社の重要情報を能動的に入手するための態勢整備

ア. 損保ジャパンの本社部門との一体運営・役職員の相互兼務を通じた経営状況の常時把握と施策立案への直接的関与

損保ジャパンの経営状況の常時把握と施策立案への直接的関与を目的に、当社と損保ジャパンの一部部署における一体運営および役職員の相互兼務を開始しました。

イ. 損保ジャパンの各種重要会議への当社役員の正式参加

損保ジャパンを含め、グループ会社の重要会議に出席する当社役職員を明確化することを通じて、能動的な情報連携態勢を強化しています。

ウ. インフォーマルなコミュニケーション強化

グループ・チーフオフィサーと各社チーフオフィサー間および当社と損保ジャパンの主要な相対部門間での定期的なミーティングを実施するなど、コミュニケーションの機会を増やすことで情報連携を強化しています。

エ. リスクアセスメントの強化

当社および損保ジャパン社において、レピュテーションリスクの評価基準を先行して細分化・明確化したうえで、リスクアセスメントの特定・評価結果を確認しました。

オ. 内部通報制度の利用促進・信頼性向上

グループ会社の新任役員等に内部通報制度の研修を実施するとともに、新たな仕組みの検討を進めています。

(3) 内部監査態勢

損保ジャパンにおける内部統制の実態の適切性等の確認・評価

- ・ 本年4月に専門的領域（内部統制、リスク管理、IT、財務経理）を検証する専任者を選定しました。
- ・ 損保ジャパン社における内部監査の適切性を検証するための共同モニタリング手法・検証項目等について、損保ジャパンと協議のうえ、具体化しました。

3. 営業優先ではない、コンプライアンス・顧客保護を重視する健全な組織風土を子会社である保険会社に醸成させるための態勢の構築（顧客の利益よりも自社の利益を優先する企業文化の是正策を含む）

(1) グループ企業理念体系の見直しと浸透・実践

グループ役職員の認識・思考・価値観および行動を変革するため、遵守しなければならない行動原則等の策定を含めた、グループ企業理念体系の見直しを行い、この浸透・実践を徹底することで、社員が声をあげられる、多様な意見が受け入れられる企業文化を目指します。そのために、グループ経営理念をSOMPOのパーパスに統合し、より理解しやすいものにいたしました。

(2) 文化・風土浸透状況のフォローアップ

現在、文化・風土の浸透度合いを計測するための手法等を検討しております。